

平成18年度 女性のチャレンジ賞表彰受賞者

受賞者名	所属	都道府県	年齢	活動内容
<small>こんどう のりこ</small> 近藤 紀子 (個人)	地域維新グループ代表	山口県	25	<p>「農業に興味を持つ若者と担い手不足の農家の橋渡し」という思いを胸に、大学院1年時に約30人の学生で農業支援型NPO法人「学生耕作隊」を発足させた。現在では、山口県を中心に高齢化や後継者不足に悩む農家の援助を行い、隊員を学生に限らず社会人にも広げながら、3年間に約50戸の農家に対して延べ2000人以上の隊員を派遣するまでに拡大するとともに、農業農村の活性化について啓蒙していくことを使命として活動している。</p> <p>また、地元の若い起業家を支援しようと「地域維新ファンド」を設立。目標の1000万円を集め、里山の活性化を目指す「中間法人やまぐち里山文化研究所」に融資を行うなど、さまざまな共同プロジェクトを通じ、地域課題の解消に取り組んでいる。</p> <p>さらに昨年には、「地域維新グループ」という若手起業家らが経営する10を超す法人・団体から成るコミュニティビジネス集団を設立。グループ代表に就任し、地域における問題解決・雇用創出に取り組んでいる。</p>
<small>はしもと まさえ</small> 橋本 正恵 (個人)	有限会社 丸二 水産取締役 佐伯市観光協 会副会長 かまえブルー ツーリズム研究 会会長	大分県	57	<p>21歳のとき、地元のおなごし(女性)部隊とともに子育ての収入源確保のために、社長として女性だけで水産会社を立ち上げた。以後、典型的な男性社会である漁師の世界で、水産業一筋に35年間励み続け、その中で早くから「地産地消」、「スローフード」、「グリーンツーリズム」といった考えに立ち、1990年から漁村体験型民宿「まるに丸」を経営することにより、県外旅行者等に対する強いインパクトを与え続けている。</p> <p>1996年からは、蒲江町観光協会会長として東奔西走するとともに、農村の「グリーンツーリズム」ならぬ漁村の「ブルーツーリズム」フィールドづくりに尽力している。また、大分県と宮崎県の県境を越えた「食」の交流である「東九州伊勢えび海道」や、チャイルドグルメ(食育)の推進等を含む「食糧供給前線基地宣言」を提唱している。</p>

平成18年度 女性のチャレンジ賞表彰受賞者

候補者名	所属	都道府県	年齢	活動内容
やぎ さちこ 八木 幸子 (個人)	株式会社 比叡 ゆば本舗 ゆば 八 代表取締役 社長	滋賀県	61	<p>前社長の故・憲一氏と結婚後、「比叡ゆば本舗 ゆば八」に入社。1994年、急逝した夫の跡を受けて、社長に就任。</p> <p>その後、経営者としての手腕を発揮し、メディアを有効活用した巧みな営業戦略で全国に「ゆばブーム」を起こし、事業を大きく発展させた。2000年の大津市制100周年を機に「ゆば工場見学体験ツアー」で観光バスを誘致するとともに「ゆば料理講習会」などを実施し、近江商人の経営哲学である『三方よし』の理念で、「比叡ゆば」の食文化を国内外に発信。200アイテム以上を製品化し、数多くの特許を取得している。</p> <p>また、環境負荷を減らすため、ゆば製造の副産物であるおからのリサイクル・リユース商品の開発に挑み、他業種との積極的なコラボレーションや福祉作業所とのタイアップを進めるなど、地域共生・地域貢献にも積極的に取り組んでいる。</p>
特定非営利活動法人 いきいき ネットワーク (代表者: すぎもと しょうこ 彰子) (団体)	-	静岡県	-	<p>1999年に静岡県内初のNPO法人として設立。24時間365日体制で、135名のスタッフにより、介護、介助や託児・ベビーシッター等の子育て支援、障害者のデイサービス、困りごと・悩み相談など、地域や家族が本当に必要としている多方面におけるサービスを提供している。</p> <p>候補団体は、代表者の杉本理事長が夫の急逝により28歳でシングルマザーとなり、苦勞して子育てした自身の経験から設立された団体である。前身の「静岡働く母の会」は、仕事と育児を両立できる相互扶助システムづくりや支援活動を推進してきた。</p> <p>現在は、その活動が評価され、厚生労働省の「緊急サポートネットワーク事業」を受託し、ファミリーサポートセンター事業で補えない病児保育や親の突発的な事態に対応し、働く親の子育てを支援するなど、行政との連携・協働に努め、地域の信頼を得ている。</p>

平成18年度 女性のチャレンジ支援賞表彰受賞者

候補者団体名	代表者氏名	都道府県	活動内容
特定非営利活動法人 ^{はたら} 働きたい おんなたちのネットワーク (団体)	^{よしだ ひでこ} 吉田 秀子	京都府	<p>平成12年5月に、女性の自立と社会参加支援を目的に設立し、同8月にNPO法人格を取得した。宇治市に事務所を置き、現在、会員は資格を有する女性約50名。宇治市等の京都府南部地域において、行政との協働事業のほか、行政からの支援を受けず、当団体独自の企画により再就職、起業などの女性のチャレンジ支援を展開している。</p> <p>特に、子育て期の女性の「プチ起業」(小規模な起業)支援のため、契約行為の難しい女性たちのために、法人名で大型店舗や商店街の空き店舗の賃貸契約を行い、その一部を貸しスペースとして活動の場を提供する「チャレンジショップ」や、団地の集会所を利用した子育てサポート事業など、働きたい女性たちのニーズに具体的なチャレンジ支援を、団体の持つネットワークをフルに活用して展開している。</p> <p>また、宇治橋通商店街振興組合と連携し、「宇治橋通り親子広場『つむぎ』」を設置し、子育て支援と商業活性化を目指すほか、健康づくりに関する元気づくりスペース「はあと」事業など、事業を拡大している。</p>

平成18年度 女性のチャレンジ賞特別部門賞表彰受賞者 (再チャレンジで活躍する女性個人、女性団体・グループ)

受賞者名	所属	都道府県	年齢	活動内容
たざわ ゆり 田澤 由利 (個人)	株式会社 ワイズスタッフ 代表取締役社長	北海道	43	<p>大手家電メーカーに入社後、夫の転勤と妊娠が重なり会社をいったん退職。社会と関わり続け自分の能力を活かしたいとの思いから、夫の5度の転勤、3人の子育て中もフリーライターとして活動。</p> <p>その後、ネットオフィス(SOHO)を実践するため、有限会社ワイズスタッフを設立。約100人の全国・海外のネットメンバーと呼ぶ契約在宅ワーカーとともに、ホームページ作成やアンケート収集・分析などの仕事をインターネット上で行っている。</p> <p>転勤で東京に赴任していた夫が2001年に北見に戻り、取締役として経理や総務を担当し会社を支えている。2005年に株式会社に組織変更し、北海道の委託事業を受託するほか、ネットオフィスの特性を活かし、全国を視野に入れて活躍している。</p>
はますな けいこ 濱砂 圭子 (個人)	株式会社 フラウ代表取締役社長	福岡県	52	<p>広告代理店でコピーライターとして働いていたが、出産を機に退職。その後、育児に必要な情報が提供されず孤立している母親の存在が多いことに気づき、1990年に育児サークル「ポニークラブ」を立ち上げ、サークルの母親たちを中心に福岡の子育てを取り巻く状況を調査して、93年5月、『子づれDE CHA CHA CHA』を自費出版で創刊。93年7月には、有限会社フラウを創立し、本格的に出版事業を開始。</p> <p>また、企業経営を学ぶために福岡市男女共同参画推進センター・アミカスの第1回「女性の起業支援セミナー」を受講。他の修了生とともに「アミカス起業倶楽部」を1993年に創設し、代表となった。平成14年の追跡調査では同セミナー修了生331名のうち、64名が起業に成功したという結果が出ており、同倶楽部は、修了生向けに月1回のフォローアップセミナーを開催するなど、女性の起業家のネットワークづくりに大きく貢献している。</p>

平成18年度 女性のチャレンジ賞特別部門賞表彰受賞者 (再チャレンジする女性の採用・登用に取り組む企業)

受賞者名	代表者氏名	都道府県	活動内容
みかさうんゆ 三笠運輸 株式会社	まつうら あきら 松浦 明	静岡県	<p>前社長(現会長)の海外視察を機に、女性の採用・登用に積極的に取り組む方針を立て、男性中心であったトラック運送業の職場を女性にも働きやすい環境に整備するとともに、女性の能力向上に取り組んでいる。</p> <p>トラックドライバーに毎年女性を1～2割採用し、社内の全職種(ドライバー、リフトオペレーター、検品出荷作業、配車業務など)に女性社員を配置している。また、妊娠退職者の再雇用制度を採用するほか、結婚退職した女性を幹部(総務部長)に登用するなど、女性の再チャレンジにも貢献している。女性管理職比率は、23.8%となっている。</p> <p>女性の参画が稀な分野での先進的な取組は、県内企業のロールモデルとなると共に、女性の積極的採用・登用を企業戦略として位置づける方策は、各企業の女性の登用に向けての士気を高揚させるものである。</p>